

「ごみと資源の総量」の実績について

令和元年度10月末時点における、家庭系と事業系を合わせた「ごみと資源の総量」は、約72万3千トンとなり、ヨコハマ3R夢プラン推進計画（2018～2021）の基準年度である平成29年度の同時期に比べ、約1千トン（0.1%）の増加となりました。

※令和元年度「ごみと資源の総量」の目標：1.5%削減（平成29年度比）

1 家庭系

「ごみと資源の総量」は、約50万トンで、平成29年度の同時期に比べ、約8千5百トン（1.7%）の削減となっています。

内訳として、ごみ量は、約4千7百トン（1.3%）の削減、資源化量は、約3千9百トン（2.4%）の削減となっています。

2 事業系

「ごみと資源の総量」は、約22万3千トンで、平成29年度の同時期に比べ、約9千5百トン（4.4%）の増加となっています。

内訳として、ごみ量は、約1千4百トン（0.8%）の増加、資源化量は、約8千1百トン（27.7%）の増加となっています。

【参考】令和元年度 4～10月のごみと資源の総量（速報値）

	ごみと資源の総量【単位:トン】						
		家庭系			事業系		
			ごみ量	資源化量 ^{※1}	ごみ量	資源化量 ^{※2}	
令和元年度	722,933	499,586	345,801	153,784	223,347	186,178	37,169
平成29年度差	983 (0.1%)	▲ 8,525 (▲1.7%)	▲ 4,663 (▲1.3%)	▲ 3,861 (▲2.4%)	9,508 (4.4%)	1,442 (0.8%)	8,066 (27.7%)
平成21年度差	▲ 42,644 (▲5.6%)	▲ 59,602 (▲10.7%)	▲ 24,253 (▲6.6%)	▲ 35,349 (▲18.7%)	16,958 (8.2%)	▲ 6,473 (▲3.4%)	23,431 (170.6%)
平成29年度	721,949	508,110	350,465	157,646	213,839	184,736	29,103
平成21年度	765,577	559,187	370,054	189,133	206,390	192,651	13,738

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。

※2 事業系の資源化量は、事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

※ () 内数値は、平成21年度または平成29年度との比を示しています。

※ 表中の数値は整数表示をしているため、算出した結果が一致しない場合があります。

※ 令和元年9、10月に発生した台風15号及び19号の災害廃棄物処理量は含んでいません。